岩倉市日本語適応指導教室

平成21年度　実践報告書

◎　連絡協議会　P．1

◎　公開指導（第１回－東小）・意見交換会　P．3

◎　公開指導（第２回－曽野小）・意見交換会　P．8

◎　指定授業（学校訪問－南部中）　P．9

◎　視察（県外・市外）　P.16
- 宇都宮市教育委員会　学校教育課視察
- 岐阜県各務原市　教育委員会視察
- その他　視察・問い合わせ　リスト一覧

◎　日本語研修会　P.18

◎　日本語αキャリア　トークセッション　P.18

◎　パレットあいち発きょういく通信　掲載　P.20

◎　各校での巡回担当者会　P.20

◎　マニュアルの改定，分冊化　P.21

◎　教材　新規作成・編集分　P.21

◎　翻訳文書　新規作成，修正分　P.21

◎　日本語・教科テストの改定（新指導要領に合わせて）　P.22

◎　評価　P.23

◎　指導区分・ステップの見直し　P.23

◎　指導項目・指導語い　一覧表の作成　P.24

◎　通訳配置－保護者会，就学時検診，１日入学　P.24

◎　日本語能力試験　P.25

◎　担当者会・研修会　P.25

◎　連絡協議会

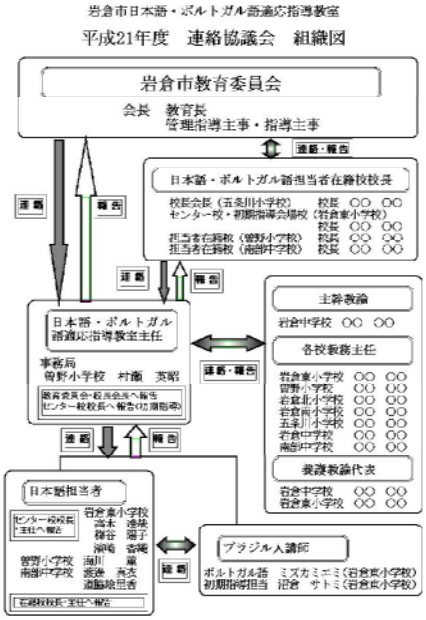
平成21年4月13日（月）

○　会長あいさつ（教育長先生）

昨年秋，世界的な経済問題が発生し，外国籍の子どもたちも本国へ帰国するのではないかという時期もあった。帰国した子どもたちも一部いるがブラジル人学校が閉鎖されるということもあって岩倉市の外国籍の子どもたちの総数は去年出発点の110人台を維持しており，今後尚一層の外国籍の子どもたちへの指導へ力をいれていかなければならない。日本人の子どもにも親，兄弟，祖父母がいるようにブラジル人の子どもたちにも親がおり，祖父母がいる。親が子どもたちを思う気持ち，祖父母が子どもを思う気持ちは日本人であろうと外国籍であろうといっしょである。そういう思いを学校現場にある私たち教員が受けとめて，子どもたちの将来の幸せを築いてやるのが我々の使命であると思うのでその点に絞ってこの教室を尚一層発展，充実させていただきたい。

○　連絡協議会メンバー

- 教育長
- 教育委員会（管理指導主事，指導主事）
- 校長会長（五条川小学校）
- 在籍校校長（ｾﾝﾀｰ校校長−東小，曽野小校長，南部中校長）
- 主幹・教務主任
- 養護教諭代表（主任養教−岩中　ｾﾝﾀｰ校養教−東小）
- 日本語担当（主任，副主任，東小在籍，南部中在籍，曽野小在籍）
- ブラジル人講師（ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ語−ミズカミ　初期指導−沼倉）



○　適応指導教室について（主任）

①　概要・目的・理念など
②　初期指導
③　受入れ手続
④　今年度の予定
- 公開指導，意見交換会
- 学校訪問指定授業（南部中）

⑤　諸連絡
- 保護者会通訳一覧表
- 日本語能力試験
- 進路先
- 連絡先
- 保険加入状況
- 外国人児童生徒数報告
- 新指導要領に合わせた指導項目一覧表・カリキュラムの作成
- 評価（日本語力・教科力テスト　ステップの見直し　指導時間）
- 教材整備状況
- 巡回指導計画の臨機応変な見直し
- 翻訳文書（全校に対応した文書を随時用意）
- ホームページの活用

○　意見交換，質疑・応答

・　普段なかなか授業を観る機会がないので，指導案も作っていただいているので公開指導に参加して在籍クラスの担任がどんな風な指導をしているのか見てみたいという意見がある。

→　去年は地域の方が公開指導をみたいという要望があり，フリーで校内を観ることができる機会を作ってほしいという市からの要望があったので，各担任が担当者の授業をみることができなかったので今年は教育長に確認をしたい。

・　初期指導でしつけ等を行い１～１か月半後に教室に帰って試験に合格しなかったら，初期指導に戻すのか？

→　去年は３か月という期間だったが，長すぎたので今年は原則１か月に変えた。最長でも２か月。テストをする必要があるのか疑わしく思っているので今年からは学校適応ができていれば教室に戻そうという方針。テストを実施するかは悩んでおり相談しながらやっていこうと思う。今年は２ヶ月で適応しない場合は言葉の要因だけなのか他の要因があるのかという問題もあるので，保護者を呼んで話し合う予定。

・　学力状況調査の場合ルビうちを全教科行い，テストを行うのか。

→　ブラジルの子だけすべてのテストに先生方でルビをふるようにしてテストを配布。国語・社会がどうしてもできなさそうな子は国語・社会はテストを行わない。

・　フィリピンから来た子がどうなるのか。オーストラリアから来た子が全く日本語を話すことができないので，初期指導を行ってほしいという要望がある。五年生のタガログ語ができる子が話しかけに来てくれることが心の安定になっている。

→　オーストラリアの子は日本国籍だが日本語指導が必要なので数に含める。また話し合いをしていく。

・　本当に日本語ができない，または日本での生活に慣れていないだけなのか。それとも発達障害なのか？

→　落ち着きがない子の保護者が普通学級に通いたいということなので強制はできない。

・　日本語担当者が班別行動や野外活動で直接指導していただけるとありがたいので，要相談で学校行事の参加に対応していきたい。

・　適応指導教室でポルトガル語指導をするような必要があるのか？という意見もあったが親とコミュニケーションがとれなくなってしまうと困る。

○　御指導（管理指導主事）

学校によって抱えている悩みの大きい小さいがあり，教務主任の先生方が各校の先生たちに日本語指導の取組を伝えていき理解をもとめていかなければならない。

三本立ての取組が十分に理解できないものも多いと思うので，年度初めに取組を伝えていくように。各校の教務主任の先生たちに紹介をいただいてしばらくばたばたするということもお伝えいただきたい。教育予算をとっているがゆえにその取組を地域の方々にも伝えアピールしていかなければならない。情報提供と市民への理解の促進をはかる。担当者の変更でばたばたすると思うがしっかりと準備をして望んでいただきたい。

◎　公開指導（第１回－東小）　平成21年6月10日（水）2時間目　9:45～10:30

○　指導場所及び指導内容等

	ポルトガル語指導	日本語初期指導	日本語指導	
			初級指導	中級指導
指導場所	東小 日本語指導教室　西側	岩倉市 日本語初期指導教室	東小 和　室	東小 日本語指導教室東側
	南館１階	南館１階	南館2階	南館1階
指導内容	ポルトガル語指導 母語指導	日本語初期指導 集中指導	日本語初級・中級指導 取り出し指導	
外国人児童生徒の状況及びねらい	日本に長く住んでいる児童生徒は母語であるポルトガル語を忘れてしまい，親とのコミュニケーションがとれなくなったり，帰国したときに不自由したりする。 そこで，母語を保持するとともに，ブラジルの教育を取り入れて指導している。	日本に来て間がなく，日本語を聞いたり話したりできない児童生徒に対して，ひらがなや数字の読み書き，ものの名前などの語い量をふやし，自分の気持ちを日本語で表現できるように，東小学校を会場にして，週20時間集中初期指導をしている。	日本語を読んだり書いたりする能力はある程度身についているが，まだ，教室での授業についていけない児童に対して，学習で使う言葉の意味や学習用具の名前などを指導している。	
指導者	ブラジル人講師	日本語担当者 ブラジル人講師	日本語担当者	
指導する外国人児童生徒	・１年生　３名	・１年生　２名 ・３年生　１名 ※　公開当日，初期指導対象児童生徒がいない場合は，初期指導が終了して間がない児童の公開指導を行います。	○　初級指導 ・２年生　１名 ・３年生　２名 ・６年生　１名 ○　中級指導 ・４年生　３名	

ポルトガル語指導（日本語指導教室）

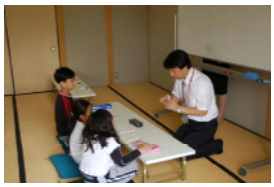
○　アルファベットカードでものや動物の名前をつくる。
○　つくったものや動物の名前をノートに書く。
○　ブラジルの物語を聞く。
○　物語の絵をかく。

日本語初期・初級指導（日本語初期指導教室）

○　絵かき歌
○　ひらがなビンゴ
○　ことばづくり
○　ひらがなカルタ

日本語初級指導（和室）

○　身に付けるもの『何をどうしています。』
○　『いる』と『ある』の使い分け
○　１・２年生で学習する漢字
○　ものの数え方



日本語中級指導（日本語指導教室）

○　教科用語（社会－地図記号・昔の道具，算数－図形）
○　ごみの分別と出し方
○　合わせ漢字づくり
○　擬態語

◎　意見交換会（地域の方－東小）　平成21年6月10日（水）10:45～11:45

○　参加者
- 市議会議員 2名
- 学校評議員 団地自治会長
- 学校評議員
- 団地自治会児童会長
- 民生委員
- 稲荷町 副区長
- 教育委員会教育長
- 管理指導主事
- 指導主事
- 東小学校校長
- 岩倉中学校 主幹
- 椙山女学園大学
- 適応指導教室主任
- 適応指導教室担当

○　公開指導　会場校　校長挨拶
- 理念が素晴らしい「日本一愛のある適応指導教室」
- 外国人児童生徒119名　東小学校が46人でもっとも多い。
- 日本語を聞いたり話したりできない児童に対しての初期指導。
- 安全な町作り推進委員の方から電話があった。『団地の中でブラジル人のおばあさんが怪我をしたときに，小6の子が通訳をした』
  「ことばを学ぶことは非常に大切」だと言っていた。
- 100年まえにブラジル日本人が移住。入管法の改正により日本に日系人が流入。ブラジル人の親は子どもを学校に入れるシステムを作って欲しいと思っている。
- 学校の先生も対応が大変。
- 落ち着いた地域社会を作るためにも，適応指導教室の存在は大切。

○　日本語・ポルトガル語適応指導教室について
①　組織
・　教育委員会を中心にした市全体としての取組
・　理念は曲げないように，具現化しようと心がけている
②　取組
・　４本柱
・　東小　初期指導会場校
・　日本語指導
・　日本語能力試験指導
かなりレベルの高い子　教室の授業についていける子
将来の就職のために挑戦，中学生中心　６年生以上
・　ポルトガル語指導
母語保持のため
子どもはすぐ母語を忘れる　親との会話をできるようにするため
ブラジルの教育も行う
帰国したときに役に立つように

○　意見交換
（団地自治会長）
・　団地は東小と密接な関係
・　今日の指導には感銘を受けた
・　子どもに押しつけるのではなくて，私たちも日常会話くらいのポルトガル語を理解できるようにしなければならないと感じた

（市議会議員）
・　自分自身岩倉団地に住んでいる
外国人の方が多い　外国語も多く耳にする
・　30%以上が外国人
ブラジル人のコミュニティが形成されている
・　外国人の子どもの中でも学校に来ていない子どもがいる。
そのような子どもたちに対してどのような取組をしているのか。
→（主任）
・　以前は未就学ゼロ
・　不況の関係でブラジル人学校に行っていた子どもたちが学校に行けなくなる
・　日本の学校に転入するように，学校に行っていない子どもを見つけたら家庭訪問を実施。未就学はなくしたい。
情報はブラジル人講師から入ってくる体制になっている。

（稲荷町　副区長）
・　稲荷では余り見かけない　見かけたらどこに連絡を？
教育委員会？東小学校？
→（主任）
・　親はまず見学に来たいという。いじめられるのではないかと不安
・　ブラジル人の親たちは日本の学校に偏見があるので，まず見てもらう

（団地自治会長）
・　日本の学校で外国人の不登校はあるのか？
→（主任）
・　不登校はなし。月曜日休み，雨休みなどの休みは過去にはあった。

（団地自治会児童部長）
・　小学校の時は先生とのコミュニケーションがよく，素直に育つが，中学校に行くと，途中くらいから学校に行かなくなる生徒がいる。
・　中学校に行ってからの対応はどうなのか？
・　14歳になったら働く？
・　そういった姿を見ると悲しくなる。
・　まともに中学校を卒業した子どもは一人しか知らない。
→（指導主事）
・　中学校に入ると進路の問題もある
→（主任）
・　昔は中２くらいで学校を辞めていくこどもがいた。
・　外国人は就学義務はないが，岩倉市では就学を勧めている。
・　今は学校を辞めさせないようにしている。
　ブラジル人学校に行く場合だけは認める。
　高校進学，大学進学をしている外国人もいる。
　現在は定住化傾向　親の仕事さえあれば，進学も夢ではない。
　中学校に入ると授業が難しくなる。劣等感をすこしでも減らせるように日本語能力試験のような目標をもたせている。

・　ブラジル人の子どもが日本人の子どもの中に入っていけるのか？
→（東小　校長）
・　最初は摩擦がある。
　躾をしっかり受けている子，保育園に行っている子は大丈夫。

（学校評議員　幼稚園　園長）
・　保護者の内どちらかが日本語で生活しようという気持ちがあると，子どもたちは馴染みやすい。
・　1日一語日本語習得できるように心がけている。
・　帰国のためのステップも考えていかなければならない。
・　母語の教育は大切。

（管理指導主事）
・　外国籍の子どもたちの転入時の年齢が下がってきている。
・　幼いときから日本に来て長く岩倉に住んでいる子も多い。
・　幼い頃から日本にいる子と，そうでない子の学校への馴染み方は違いがある。
・　生活適応のために初期指導を始めた。
　そのお陰で教室でのトラブルは少なくなった。
・　ことばを覚える，生活様式を覚えるということは大切。
　高学年になってから入ってくる子は覚えがおそい。

（主任）
幼児教育が大切。

（学校評議員　幼稚園　園長）
・　本を使った教育が大切　本を使うと聞く力が伸びる。
・　ブラジル人の親は日本の幼稚園の教育が素晴らしいと喜んでいた。

（指導主事）
・　今日の指導で取り入れていた『ゴミの分別』は何のためか。
→（主任）
・　社会科の学習と親へゴミの分別について知らせるため。
・　ゴミの分別に関するクレームがあった。
　子どもたちから親へ日本の地域社会のルールを伝えてもらえるように。
・　地域への貢献

（学生）
・　適応教室の子どもたちに在籍クラスはあるのか？
→（担当者）
・　普段は在籍クラスで学習し，日本語の能力に応じて取り出しをする。
→（主任）
・　初期は集中的に行う。
・　学校転入時に学級に在籍はしている。

（主幹）
・　市内の大人の外国人の方へのことばの指導は難しい。
・　子どもから大人へ伝えてもらえる。その面でも適応指導教室の取り組みは素晴らしい。
・　ポルトガル語の指導もある。
・　外国人家庭への貢献度は高い。

○　諸連絡　～資料から～
・　全国では余り増えていないが，岩倉市では急激に増えている。
・　2008　市町単位の外国人居住数　割合は全国８位。
・　2009　不況の関係で全国で減少しているが，岩倉では増えている。
・　外国人児童生徒数も増えている。今後の対応が大切。

○　教育長あいさつ（謝辞）
・　本日参加して頂けた方には，一抹の安心感を感じとって頂けたのではないか。
　偏見－日本の学校では，ブラジル人がいじめられるのではないかという不安がある。逆にブラジル人が多い学校に子どもをやるのは不安だと考える保護者もいる。
　この公開を通して，その偏見，不安がへって欲しい。
　学校だけでなく，行政，自治会が全体で取り組むべき。
　ブラジル人講師は学校と自治会の間に立って，つなぎ役をしてくれている非常に貴重な存在。

◎　公開指導（第２回－曽野小）　平成21年11月20日（金）5時間目　13:30～14:15

指導場所及び指導内容等

	ポルトガル語指導	日本語指導①	日本語指導②
指導場所	６・７組	日本語教室	日本語教室
	本館２階	本館２階	本館２階
指導内容	ポルトガル語指導	日本語初級指導	日本語中級指導
外国人児童生徒の状況及びねらい	日本に長く住んでいる児童生徒は母語であるポルトガル語を忘れてしまい，親とのコミュニケーションがとれなくなったり，帰国したときに不自由したりする。 そこで，母語を保持するとともに，ブラジルの教育を取り入れて指導をしている。	日本語を聞いたり話したりする能力はある程度身に付いており，日常会話では支障がない児童でも，教室での授業内容を理解し，学習活動に参加することは難しい。そのような児童に対して，授業で使われる言葉・表現を補充するとともに，文章を読んだり書いたりする能力をのばす指導を行い，気持ちを豊かに表現できるように指導をしている。	日本語で自分の気持ちを表現でき，教室での授業にも参加できる日本語力が身に付いている児童に対して，多様な表現力，学習で使う言葉等の補充指導をするとともに日本語能力試験に合格できるように指導をしている。
指導者	ブラジル人講師	日本語担当者２名	日本語担当者２名
指導する外国人児童生徒	・１年生　１名 ・３年生　１名 ・５年生　２名	・３年生　１名 ・４年生　２名 ・５年生　１名	・４年生　２名 ・６年生　２名

本時の指導内容

日本語中級指導（日本語教室－後）

○　慣用句
・　「頭が下がる」「目を丸くする」などの表現を知る。
○　ことわざ
・　算数の教科用語をワークシートに書きこみながら，ことわざをみつける。
○　県名
・　近畿地方の県を学び，クロスワードを解く。
○　『,』で意味の変わる文
・　読点をつける位置で意味の変わる文を読みとる。
○　敬語
・　正しい敬語の使い方を学ぶ。
○　聴解
・　日本語能力試験に向け，グラフを用いた問題を解く。

日本語初級指導（日本語教室－前）

○　表現
・　場面展開を読みとり，適切なセリフを入れる。
○　擬態語
・　気持ちを表す擬態語の表現を知り，擬態語を使って自分の経験を話す。
○　教科指導　算数　図形
・　学年に応じた平面図形の見分けをするとともに図形をワークシートに書く。
○　教科指導　社会　地図記号
・　ものの形がもとになった地図記号を知る。

ポルトガル語指導（６・７組）

○　感嘆符！の使い方
○　『T』と『D』のつくことば
○　音節
○　反対ことば
○　筆記体（イタリック字）の練習
○　日常会話でよく使う言葉

◎　意見交換会（日本語関係者－曽野小）　平成21年11月20日（水）14:30～15:30

○　参加者（１７名＋２名）

・　長野県伊那市立伊那北小学校	日本語担当者
・　岐阜県各務原市立緑苑小学校	日本語担当者
・　岐阜県各務原市立緑苑小学校	日本語担当者
・　岐阜県各務原市立鵜沼第二小学校	日本語担当者
・　岐阜県各務原市立尾崎小学校	日本語担当者
・　愛知県安城市立祥南小学校	日本語担当者
・　愛知県安城市立祥南小学校	日本語担当者
・　愛知県東浦町立東浦中学校	日本語担当者
・　名古屋外国語大学	学生
・　岩倉市日本語担当者	６名
・　岩倉市ブラジル人講師	２名

※　教育長先生，管理指導主事
－あいさつ，岩倉市の取組説明

○　岩倉市の取組について概略説明
・　適応指導教室についての説明
・　管理指導主事より－取組について

○　質疑応答
・　教材づくりはどうしているのか？
→(担)
・　各自担当者で作成し，担当者内で共有している。
毎週，水曜日の午後，教材作成の時間をとっている。
毎週，担当者が集まり，研修会・担当者会を開いている。

→(参加者)
・　生徒指導で大きなことが起こった時の対処の仕方は？
→(担)
・　担当者がすべての学校に在籍しているわけではないので，責任校の代表者が関わっていくが，原則，各学校の校長先生や教務主任の先生と連絡をとりながら解決していく。担当者間での情報交換は欠かさないようにしている。
→(参加者)
・　岩倉市全体での取組ということがすごい。
　自分の小学校では，日本語指導以外にも教科指導もやり，日本語指導の時間は，週に５時間ぐらいしかできなかった。また，校務分掌を多く任され，指導の教材などを作るゆとりがない。日本語指導を始めた当初は，教室も教材もなく大変だった。市の教育委員会が日本語指導の状況を把握しきれていなかったため，学校で自分の置かれている立場がつらかった。
　学校内での理解者はだんだんと増えていったが，管理職の方の理解が得られなかったことがつらかった。
→(参加者)
・　まずは，できることから始めていく。最初のころは戦いであった。
　村瀬先生から，『頑張っているところを発信しなければいけない』とアドバイスを頂き，ちょうどよい機会があったので，日本語指導の様子を見ていただくことができた。今では，教育委員会の方とのつながりもでき，飛躍的に進歩している。
→(主任)
・　公開指導には，様々な役職の方をお呼びし，指導の様子を見ていただく。それにより，担当者が動きやすい環境づくりが可能になってくる。
→(参加者)
・　学校だけで終わるのではなく，外に発信していくことが大事だと思う。
→(主任)
・　各学校で，担任の先生や養護教諭の先生方といっしょに話合いをもつ機会を設定していこうと考え，日程調整を行っている。

→(参加者)
・　生徒が持ちかける相談の対処は？
→(担)
・　生徒の話をじっくり聞く。気持ちを和らげる努力をする。
→(参加者)
・　自分一人で抱え込まないように。協力していくことは大事だと思う。

★　教育長先生・・・岩倉市の取組についてのお話

→(参加者)
・　地域のブラジルの子どもたちが学校に遊びに来たりする。
　校長先生から，困った時には，助けを求めるようにと言われた。
→(参加者)
・　ボランティアで教えているが，生徒指導はどのようにしているか？
→(主任)
・　日本語指導力よりも生徒指導力が大事。
→(参加者)
・　時には，担任の先生のお力を借りることも必要。

◎　指定授業（学校訪問－南部中）　　平成21年6月22日（月）

１　岩倉市日本語適応指導教室について

【入管法改正に伴う日系人の増加】

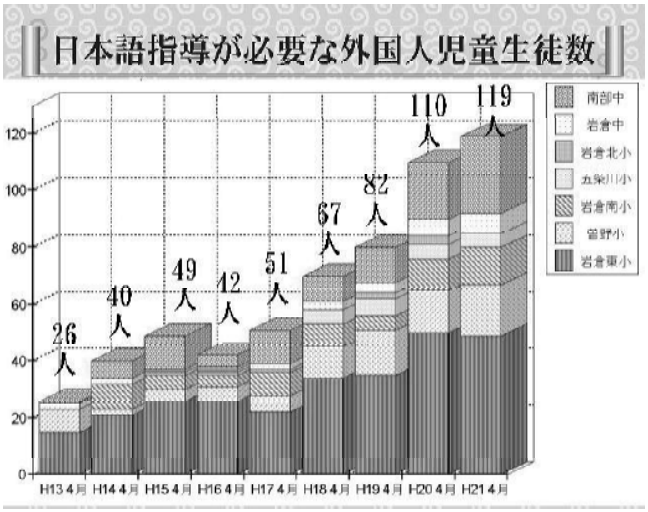
日本における外国人労働者，特に日系ブラジル人・日系ペルー人の増加が始まったのは，1985年頃であり，1990年6月の出入国管理及び難民認定法(入管法)の改正を経て，短期間のうちに巨大現象化した。日系外国人の数は，現在では，朝鮮，中国に次いで第3位の位置を占めるまでになった。その中で，現在，日本で生活している日系ブラジル人は約30万人に上り，ブラジルで生活している日系人は150万人以上と推定されている。その歴史は19世紀後半に遡り，昨年(2008年)，日本人ブラジル移民の100周年を迎えたのである。「海外で働いてお金を貯め，自分の国へ戻る」という想いは，時代の流れを経て，今，日本で生活している日系ブラジル人に引き継がれた。しかし，『デカセギ』に来ていた外国人労働者は，近年，『定住化』の傾向にあり(厚生労働省職業安定局 2004年調)，公立小中学校に通っている外国人児童生徒も，このまま日本に定住していくことが予想される。

文部科学省の「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ状況等に関する調査－平成19年度」によると，我が国の公立小・中・高等学校，中等教育学校及び特別支援学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒数は，25,411人（平成18年度22,413人）で，前回から13.4パーセント増加している。学校種別では，小学校18,142人，中学校5,978人である。全国の外国人児童生徒の増加率は，平成13年度から平成19年度の間で約1.37倍である。母語別では，ポルトガル語10,206人，中国語5,051人，スペイン語3,484人，その他の母語6,670人となっており，ポルトガル語，中国語及びスペイン語の3言語で全体の7割以上を占めている。

愛知県は，全国で最も「日本語指導が必要な外国人児童生徒数(5,030人)」が多い県である。

岩倉市での外国人児童生徒の増加率は，平成13年度から平成19年度の間で，約3.08倍であり，全国の増加率(約1.37倍)と比べ，高くなっている。

【岩倉市の現状】



2009年4月現在，岩倉市内の日本語指導が必要な外国人児童生徒数は119人である。岩倉市は，ポルトガル語90人（75%）スペイン語9人（8%）フィリピノ語10人（9%）その他の言語－パシュトゥー語，シンハラ語，中国語10人（9%）となっている。平成20年度「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ状況等に関する調査(愛知県版)」によると，日本語指導が必要な外国人児童生徒の人数だけでみると，岩倉市は県内13位に位置してるが,小中1校あたりに在籍する「日本語指導が必要な児童生徒数」は，平均15.7人で小牧市,知立市に次いで第3位に位置している。

また，中日新聞サンデー版（2008年5月8日）の各市町の人口に占めるブラジル人の割合でみると，岩倉市のブラジル人は人口の4.2%(2,031人)であり，全国8位に位置している。

このような現状の中，外国人児童生徒の支援には多くの課題が発生するようになり，平成13年度に岩倉市全体の取組として，日本語適応指導教室を開設した。

平成21年度4月1日現在，岩倉市内の小中学校には，9カ国6言語の児童生徒が在籍している。生まれた国や言葉の違いだけでなく，生まれ育った環境により文化や生活習慣，考え方は異なる。戸惑いや不安の中，外国人児童生徒たちは，日々，肌で文化の違いを感じている。また，外国人児童生徒の日本語習得が進む反面，母語を忘れ，親との母語でのコミュニケーションをとることが困難になっていくという問題も発生している。両親ともに朝早くから夜遅くまで働いていることが多く，親と話すことができる時間が極端に少ないため，その傾向はより強くなっている。このように，日本の学校生活に適応できない，教科学習が理解できない，さらに，中学校を卒業した後の進学・就職の問題など，外国人児童生徒は多くの問題を抱えている。このような外国人児童生徒を取り巻く環境を考慮し，そのような外国人児童生徒に，将来の夢や目標をもって日本で生活していけるよう，日本の学校や日常生活に適応できるように日本語を指導していく必要がある。

外国人児童生徒は，もともと自分の意志で日本へ来たわけではない。言葉がわからない上に，文化・習慣の違いで，日々，ストレスを抱えている。
そこで，常日ごろから，指導をしていく中で児童生徒に言い続けている。ここでの学習は，定住するにしろ，母国に帰るにしろ，必ず自分の力となり，その力は自分の夢の実現に近づける手助けとなるものであるということである。日本に来たばかりで，言葉もわからず，自分の気持ちを表現することができない状態で生活していくことは，とても苦痛を感じる。その中で，前向きに日本語を学ぼうとする姿勢は，周りの日本人の生徒にもプラスの影響を与えるものであると思う。そのような外国人児童生徒たちの努力は，尊敬に値するものである。
また，日本人の生徒にとっても，様々な国の子どもたちと生活していくことは，国際理解の第一歩であり，他者への思いやりの心をもち，人の立場でものを考えられるようになることにつながるのである。国際理解とは，自己を知り，他を認めることである。自分の国，地域の自然や社会，学級や家庭を自分自身とのかかわりの中で，学び，知り，理解すること。また，他の地域や国に住む人々について知り，文化，習慣，風俗の違いを互いに認めあうこと。すなわち，相手の立場が理解できるということである。外国人児童生徒が，日本の文化・習慣に慣れることは，もちろん大切なことであるが，できる範囲でこちらからも相手の国の文化・習慣を理解し，お互いに歩み寄ることも必要であると思う。日本人児童生徒と同様に外国人児童生徒も，認められ，誉められることで，自己の存在感を感じることができるのである。私たちが，『心の居場所』になるとともに『授業で活躍できる学力』を付けることが大切であり，縁あって，来日した外国人児童生徒が，日本に来てよかったと感じるような指導を心掛けている。

【岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室の取組】

岩倉市では，市全体の取組として，外国人児童生徒に対して日本語教育を行うと同時に，外国人児童生徒の大半を占めるブラジル人に対して，母語であるポルトガル語指導を行っている。
日本語・ポルトガル語適応指導教室では，平成13年度開設当初より，下記の理念のもと，日々の指導に取り組んでいる。

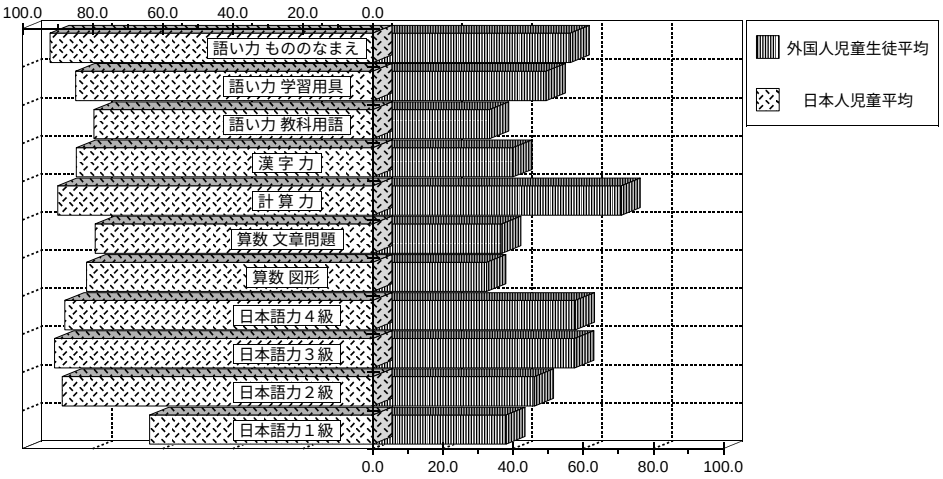
(理念)
① 外国人児童生徒が日本の学校に適応できるように指導する。そのことが，日本人児童生徒にも好影響を与える。
② 市内すべての小中学校に在籍している児童生徒に同じ教育をする。日本語を話せるからいいのではなく，授業についていけるようにする。
③ 地域でおきている外国人差別・偏見の是正を学校から広げていく。
④ 未就学・不登校児童生徒をつくらない。
⑤ 親とのコミュニケーションがとれるよう，また，帰国した際に言葉の壁にぶつからないよう，ブラジルの教育を取り入れている。

(日々の指導で配慮していること)
① 学校や日常生活に適応できるように日本語の指導をすること。
② 日本の文化や学校のきまり，社会のルールなどを指導すること。
③ ブラジル人には，ブラジルの教育やポルトガル語の指導をすること。
④ 学校から家庭への連絡・通信などを親に理解できるようにすること。

【日本語・教科の習得度測定から評価へ】

外国人児童生徒の日本語力をつかむため，『日本語・教科テスト』を実施している。『日本語・教科テスト』の結果から個々の課題をつかみ，身に付けさせたい項目を限られた指導時間で有効に指導するために，より効果的な教材・教具の開発及び指導法の研究を進めている。
(日本語・教科テストーテスト内容)
漢字テスト・計算テスト・算数文章題テスト・語いテスト・学習用具テスト
・教科用語テスト・図形テスト・レベル別日本語能力文法テスト
『日本語・教科テスト』の項目として，上記に挙げた内容のテストを学年別に作成した。
来日して数ヶ月しか経っていない児童・生徒であっても，自分の在籍学年で学習する内容を含めたテストを受けるということになる。これは，自分の現在の総合的な日本語・教科に関する力を測るためである。

（テストの結果から）



『日本語・教科テスト』の結果から考察してみる。

語い力テストにおいて，長く日本に滞在している外国人児童生徒でも日本人児童生徒に比べて語い量が極端に少ないことがはっきりした。日常生活の中で目にするものは差があまりないが，学習用具や教科用語などに関しては，顕著に差がみられた。また，口頭では言えているものの，濁点や伸ばす音などの表記が難しいことがわかった。そのような傾向は，日本語能力がある程度身に付いている外国人児童生徒にもしばしば見られた。やはり，いくら流ちょうに日本語を話す児童生徒でも読んだり書いたりすることは身に付いていない現状から，文字指導の必要性を強く感じた。

漢字テストにおいて，訓読みよりも音読みの問題の正答率が低かった。また，熟語になると途端に読むことができなくなる。

計算テストにおいては，暗算でできる問題は正答率が高いが，筆算を使わなければならない計算や小数・分数の計算になると頭を抱える外国人児童生徒もみられた。小学校の4年生以上で来日した場合，南米から来た外国人児童生徒は，筆算の仕方が違うことに戸惑うことが多い。フィリピンの生徒は，筆算という方法すら知らないままに中学生になり，日常の学習についていくことができない。すべての外国人児童生徒に共通して言えることでは，1年生程度のたし算，ひき算を練習させてみると答えを出すまでに予想以上に時間がかかるということがある。中学生の生徒の中にも，指を使って計算をしている生徒もいる。そこで，10のまとまり，10からひくということを繰り返し指導した。また，当然のことながら，かけ算の九九は身に付いていないため，計算に時間がかかる。それぞれの国によって違う計算方法であるが，どちらの方法が自分にとってより良い方法かは，後日，自分で判断すればよいという考えから，あくまで日本語教室では，日本式の計算方法に慣れさせることにしている。

算数文章題テストにおいて，文章題の日本語の表現を理解し，立式することができない外国人児童生徒が多い。たとえば，低学年の文章題の中には，「あわせて」や「～に～をくわえると」，「ごうけい」などいくつかのたし算（加法）の意味をもつ表現が出てくる。計算ができていても，多様な日本語表現を理解できないことがある。

上記のような実態をふまえ，個々の日本語能力が異なることから，個人の日本語能力に合った教材・教具を用いて指導している。

さらに，岩倉市日本語指導教室では，日本語能力試験の受験を希望する児童・生徒に対して，日本語能力試験指導を行っている。日本語能力試験を挑戦させている大きな理由は二つある。一つ目は，日本語能力試験は，資格として認められているので，将来，ブラジルへ帰ったときや日本で働くときに，有利になるということである。二つ目は，目標を持たせ，自信をつけさせることである。中学生になると，授業についていけず，自分の進路に不安を感じてしまう。そのような児童生徒にやる気を出させ，努力したことや合格したことを自分の自信につなげてほしい。

２　指導の段階

・　日本語指導　中級（ステップ3）
　学習用具の名前，教科用語の意味，算数図形問題，会話表現，漢字の熟語づくり，日本語能力試験・聴解問題

３　本段階での指導のねらい

人と人とのコミュニケーションを図るために，意思の伝達手段として，言葉は重要である。外国人生徒は，日本語を母語としないため，自分の気持ちを先生や友達に伝える時の表現力が劣り，意思の疎通がうまく図れない場合がある。そんな外国人児童に対して，語い量を増やし，時と場に応じた言葉の使い方を指導することで，コミュニケーションが円滑に図れるようになり，今まで以上に日本の生活に適応することができるよう

になる。
　また，楽しく学校生活を過ごし，一見，日本語を十分に理解していると思われる生徒でも，学校でしか使わない学習用具の名前や教科書に出てくる言葉など，日常の生活の中では，あまり使わない言葉の意味が理解できずに戸惑うことが多い。
　さらに，漢字文化圏外の生徒にとって，漢字の読み書きを習得することは困難なことである。
　上記のような実態をふまえ，日本語を話せるから日本語指導が必要ないと判断するのではなく，日常の学習活動に参加できる日本語力が身に付くまで指導をすることが大切であると考える。

4　本段階で目指す生徒像
（1）教科用語の意味や学習用具の名前を覚え，教室での学習活動に参加できる。
（2）意味を理解して使える語い量を増やし，自分の気持ちを豊かに表現できる。

5　本段階での指導内容
（1）教科用語の意味を理解し，学習用具の名前をわかるようにする。
（2）算数の図形問題に出てくる言葉を理解し，正しい式や答え方ができるようにする。
（3）日常生活に出てくる多様な表現や慣用句を知り，意味を理解できるようにする。
（4）漢字を組み合わせて，熟語の意味を理解し，読むことができるようにする。
（5）日本語能力試験２級から３級レベルの聴解力・文法力を身に付けるようにする。

6　日本語の習得状況及び課題（H21.4現在）　　（A，B，C，D =生徒）

日本語・教科テストより		A(1年)	課題	B(1年)	課題	C(3年)	課題	D(3年)	課題	日本人平均
語いテスト	もののなまえ	71.2	○	71.8	○	69.1	○	53.6	△	97.6
語いテスト	学習用具	48.3	△	55.8	△	54.2	△	45.0	△	92.6
語いテスト	教科用語	37.5	△	41.7	△	20.0	△	25.8	△	91.0
漢字テスト		45.0	△	33.6	△	47.8	△	43.0	△	95.0
計算テスト		66.1	○	79.5	○	70.4	○	76.1	○	88.9
算数テスト	文章問題	23.7	△	47.3	△	20.0	△	40.0	△	78.0
算数テスト	図形	46.6	△	37.6	△	20.0	○	23.2	○	89.7
日本語能力４級テスト		90.0	◎	96.0	◎	100.0	◎	100.0	◎	91.8
日本語能力３級テスト		89.0	◎	95.0	◎	86.0	◎	98.0	◎	93.2
日本語能力２級テスト		82.0	○	94.0	◎	62.0	○	65.3	○	89.3
日本語能力１級テスト		未実施		未実施		46.5	△	49.0	△	未実施
※　平　均		59.9		65.2		54.2		56.3		90.7
日本人平均		90.7		90.7		90.7		90.7		
日本人との比較		-30.8		-25.5		-36.5		-34.4		

※100点満点法　　◎・・十分習得　　○・・ある程度習得　　△・・課題

7　本時の指導
（1）ねらい
　ア　家庭科・体育科・音楽科で使う学習用具・教科用語を知り，教室での学習活動に生かす。　(語い)
　イ　算数科の図形問題に取り組み，言葉の意味を理解して，正しい式や答え方ができる。　(語い・教科用語)
　ウ　基本文型の使い方を知り，日常生活での豊かな表現力を身に付ける。　(話す)
　エ　漢字を組み合わせて，熟語の読み方を確認する。　(語い・読む)
　オ　日本語能力試験の聴解問題を解き，聴く力や多様な文章表現を身に付ける。　(聴く)
（2）用意するもの　　教師・・・提示用資料，ワークシート，プロジェクタ
（3）指導語い
　○　学習用具
　　・家庭科－　しゃもじ　炊飯器　フライパン　ガスコンロ　縫い糸　針　ミシン
　　・体　育－　マット　跳び箱　バレーボール　グローブ　バトン　ぜっけん　ﾊﾞｽｹｯﾄｺﾞｰﾙ
　　・音　楽－　トランペット　ピアノ　けんばんハーモニカ　トライアングル
　　　メトロノーム　リコーダー
　○　教科用語
　　・算　数－　円 長方形 三角形 四角形 底辺 高さ π 三角柱 四角柱 三角すい 四角すい
　　・体　育－　リレー
　　・音　楽－　合唱　ト音記号　音符

○　基本文型
・　～ながら　～たり～たり～　もう～／まだ～　もし～たら～　～そう
　　～られる　～させる
○　漢字（熟語）
・　雨天　着物　羊毛　牛肉　空席　旅行　急行　病人　花粉　上着　綿花　老人
　　外出　体重　電車　水着　祝日　建物　地下　現金　予約　海水　月光　黒板
　　親友　美人　新年　陸上　金賞　船旅　強風　強力　強打　白線　海底　国境
○　日本語能力試験２級～３級レベル問題　聴解問題例
・　『午後の天気は，どうなりますか。』
・　『男の人の誕生日は，いつですか。』
・　『女の人が車の輸出について話しています。どのグラフを見ていますか。』

（４）指導過程

	生　徒　の　活　動	教　師　の　支　援
学習用具教科用語 (15分)	1　家庭科・体育科・音楽科で使う学習用具・教科用語を覚える。 （1）まちがいさがしゲームをする。 （2）絵カードを見て名前を言う。 2　算数の図形問題をキーワードになる言葉に注意しながら解く。 （1）図形の名前を言う。 （2）公式に出てくる用語の意味を確認しながら，体積の問題を解く。	○　事前に学習した教科用語・学習用具の名前を確認する。 ○　ゲーム的要素を取り入れる。 ○　ランダムに選んだカードを提示し，名前を知らない用語は繰り返し提示するように配慮する。 ○　時間にゆとりがあれば，語いの定着を図るために，クロスワードパズルを取り入れる。 ○　立体模型を提示し，図形問題を解く時に大切な言葉の意味を確かめる。 ○　計算に時間をかけないような数値を用いる。
文型 (15分)	3　基本文型を使って文づくりをする。 （1）日常生活の絵を見ながら，どのような場面・会話かを考える。 （2）基本文型を用いて文作りをする。 （3）物語の絵を見て，基本文型を用いて場面の説明をしながら，ストーリーの流れを話す。	○　実際にどのような場面で使う表現なのかを理解できるように絵を提示する。 ○　基本文型を用いて答える場の設定をする。 ○　個の日本語力に応じて文作りをするよう助言する。
漢字 (10分)	4　漢字カードを使って熟語をつくる。 （1）漢字一字の意味を確認し，漢字を読む。 （2）漢字を組み合わせて，熟語をつくり，意味を確認しながら読む。	○　熟語の読み方を繰り返し，自分の耳で聞く。
日本語能力 (10分)	5　日本語能力試験２級～３級レベルの聴解問題に取り組む。	○　多種・多様な語いや表現，文法にできるだけ多くふれるように配慮する。

（５）到達状況
ア　家庭科・体育・音楽で使う用語の名前を覚えることができたか。（語い）
イ　算数の図形問題を解くために必要な言葉の意味を理解し，面積の公式の意味を理解できたか。（語い・教科用語）
ウ　基本文型を知り，日常生活での使い方を覚えることができたか。（話す）
エ　熟語の読み方を知ることができたか。（語い・読む）
オ　日本語能力試験２級～３級レベルの問題が解けたか。（聴く）

◎　視察（県外・市外）

○　栃木県宇都宮市教育委員会　学校教育課視察－14名　　10月14日（水）

・　学校教育課指導主事　　２名
・　初期日本語指導教室等担当教員　３名
・　初期日本語指導教室指導員　　６名
・　日本語ボランティア　　２名
※　大阪教育大学教育学部　准教授　１名

10:10～10:35　南部中　適応指導教室概要説明
・　適応指導教室概要説明－管理指導主事

10:45～11:35　南部中公開指導
（初級4名，日本語能力試験指導8名）

11:50～12:15　東小公開指導
（初級②3名，初級①3名，初級①3名）

12:15～12:30　学校適応指導
（初期指導）取組説明
・　東小校長あいさつ
・　学校適応指導（初期指導）取組説明

14:00～14:20　適応指導教室取組説明
14:20～14:40　質疑応答（全体会）
14:40～15:00　情報交換（グループトーク）

○　岐阜県各務原市　教育委員会　視察－2名　　10月6日（火）

・　各務原市教育委員会　指導主事
・　適応教室『フトゥロ』　担当者

10:45～11:10　東　小　学校適応教室及び日本語指導教室の参観
11:10～11:35　東　小　学校適応指導（初期指導）取組説明－管理指導主事
11:45～12:30　曽野小　岩倉市の取組説明・情報交換
取組説明・情報交換－適応指導教室主任

○　兵庫県教育委員会　視察－2名　　11月24日（火）

・　多文化共生センター主任指導主事
・　人権教育課　指導主事

◎　問い合わせ　リスト一覧

○　学校訪問・問い合わせ等　平成21年度（2009年）　12月現在

○　兵庫県　教育委員会 多文化共生センター主任指導主事 人権教育課　指導主事	視察2名　岩倉にの取組について　評価テストについての質問
○　長野県伊那市立伊那北小学校 岐阜県各務原市立緑苑小学校 岐阜県各務原市立鵜沼第二小学校 岐阜県各務原市立尾崎小学校 愛知県安城市立祥南小学校 愛知県東浦町立東浦中学校 名古屋外国語大学　学生	公開指導参加9名 公開指導（菅野小学校）視察 意見交換会参加 岩倉市の取組 指導法・指導教材などの情報交換
○　栃木県宇都宮市　教育委員会 指導主事，国際交流協会理事　他	視察14名－岩倉市の取組について 情報交換
○　岐阜県各務原市　教育委員会 指導主事，適応教室担当者	視察2名　岩倉市の取組・初期指導について
○　名古屋市教育委員会　指導室	ホームページにかかわる費用，委託について
○　三重県交際交流財団	東海地区社会教育主事研修会で岩倉市の取組を例として文書として紹介
○　岐阜県各務原市　国際交流協会	指導教材について
○　関西大学	日本語教材検索リンクに岩倉市日本語適応指導教室のホームページをリンク
○　岐阜県各務原市立緑苑小学校 岐阜県各務原市立蘇原第二小学校	視察－岩倉市の取組について 情報交換
○　京都大学　言語グリッドプロジェクト	ホームページ翻訳文書引用依頼　翻訳精度を上げるシステムづくり（担当：角川）
○　立命館人学産業社会学部	岩倉市の取組について　特色・留意点など質問
○　小牧市立篠岡小学校	南部中指定授業参観　適応指導教室についての説明
○　椙山女学園大学	公開指導（岩倉東小学校）参観　意見交換会参加
○　愛知県教育委員会	家庭向け広報誌『パレット』取材（年2回，6月・12月発行）　NO.12　掲載
○　愛知県　多文化共生推進室	岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室のマニュアル送付依頼
○　愛知県瀬戸市立八幡小学校	日本語指導案の書き方について
○　三重県松坂市第2小学校	ブラジル帰国手続についての問い合わせ

◎　日本語研修会

※　講　　師　社団法人　国際日本語普及協会（AJALT）　調所美恵子先生
【主な著書・共著】
『かんじだいすき』『Japanese for young people』

○　研修内容　入門期の日本語指導・漢字指導・年少者教科指導
○　期　　日　平成22年３月３日（水）
○　日　　程
（１）第１部（14:00～15:10）　入門期の日本語指導
（２）第２部（15:30～16:30）　漢字指導，年少者教科指導

◎　日本語αキャリア　トークセッション

教員採用試験に外国語堪能者枠

■村瀬英昭さん（以下，村瀬さん）

岩倉市で日本語・ポルトガル語適応指導教室の主任をしております村瀬です。今，ロドリゴ君のほうから話があったようにいじめだとか差別だとか，そういう外国人が受けるようなことが，現実として当たり前のようにあるわけです。そういうことに対してやはり一人でも認めてあげる教師がいればその子は救われるのではないかと思います。将来，職業として外国人児童生徒の教育に携わる方法として，公立の小中学校で教師になるという方法があります。そのためには，まず教員免許を取得する必要があり，学校の先生になるということが必要になります。ここ数年で外国人児童生徒が，かなり急増してきています。その結果，教員採用試験に外国語堪能者枠という枠ができています。今のところポルトガル語，スペイン語，中国語の３言語です。この３言語ができると採用のときに優遇されるということがあります。学校現場としては，それプラス日本語の専門知識を持った方々に入っていただきたいのです。 指導というのは時間がかかりますからできるだけ短時間で効率よく行っていくためには，当然言語がしゃべれればありがたい。プラス日本語習得の専門知識を持っている方がほしい。岩倉市も昨年度，名古屋外国語大学から１名，今年度も名古屋外国語大学と愛知教育大学から日本語教育の学習をしてきた人を講師として採用というかたちで進めています。

学校の先生になって，実際に外国人児童生徒に日本語を教えていく場合，身分は一般の教員と同じです。教諭という立場ですが，「日本語教育適応学級担当教員」になります。この制度は日本全国全く同じですので，日本語教育が必要な外国人児童生徒の人数に応じてですが，日本語教育適応学級担当教員配当数というのがあるわけです。小学校ですと10名以上日本語教育が必要な外国人児童がいれば，教員の定数というのがあって，その定数にプラス１名いただけるわけです。小学校は10から20刻みです。中学校の場合は３学年ということもありますし，中学校の指導というのは難しいものですから10人刻みで配当がいただけるということです。ですから，それぞれの学校に外国人児童生徒がいれば自分が正式採用であれ，講師であれ，日本語担当者というかたちでかかわることができるわけです。

昔は，３年出稼ぎサイクルといわれていましたが，定住化傾向になっています。しかし，昨年度の景気悪化により情勢がドッと変わりました。今日本に残っている人たちは何とかして日本で生きていきたいという気持ちが強い定住化傾向になっています。定住化ということで，学校現場において日本語担当者，行政のほうも教育委員会や県のほうの事務所とか，そういうところもきちっとやっていかなければいけないのだろうという認識を持っていただけるようになってきています。彼らが授業で活躍できる力をつけてやらなければいけない，授業の中でお客さんであってはいけないということと，将来，ロドリゴ君が大学に行ったように自分たちがまず教師として支援すること，高校に行ける学力をつけてやらなければいけない。それから，日本語能力試験，これを持っていると持っていないでは将来就職に大きく影響してきます。あくまでこのあたりは公教育の範ちゅう外なのですけれども，この子たちの将来のことを考えたら，それは岩倉市の特色として当然やっていくべきだろうということで取り入れています。それから，子どもたちは自分の意志で来日していないわけですよね。親の仕事にくっついて来させられているということで，言葉が分からない上に，文化，習慣の違いで毎日ストレスを抱えています。特に来たばかり，最初はいいんです。しばらくすると，暴力とか，言葉で表せないので身体で表わします。そういう時期を過ぎてうまく適応していくということを，できるだけ早く支援してあげるために，自分たち担当者は心の居場所ということで日々の指導をしています。明日，県の方が来られる指定授業という授業をするのですが，そういうこともやりながらいろいろな人に知っていただくという取組みも行っています。

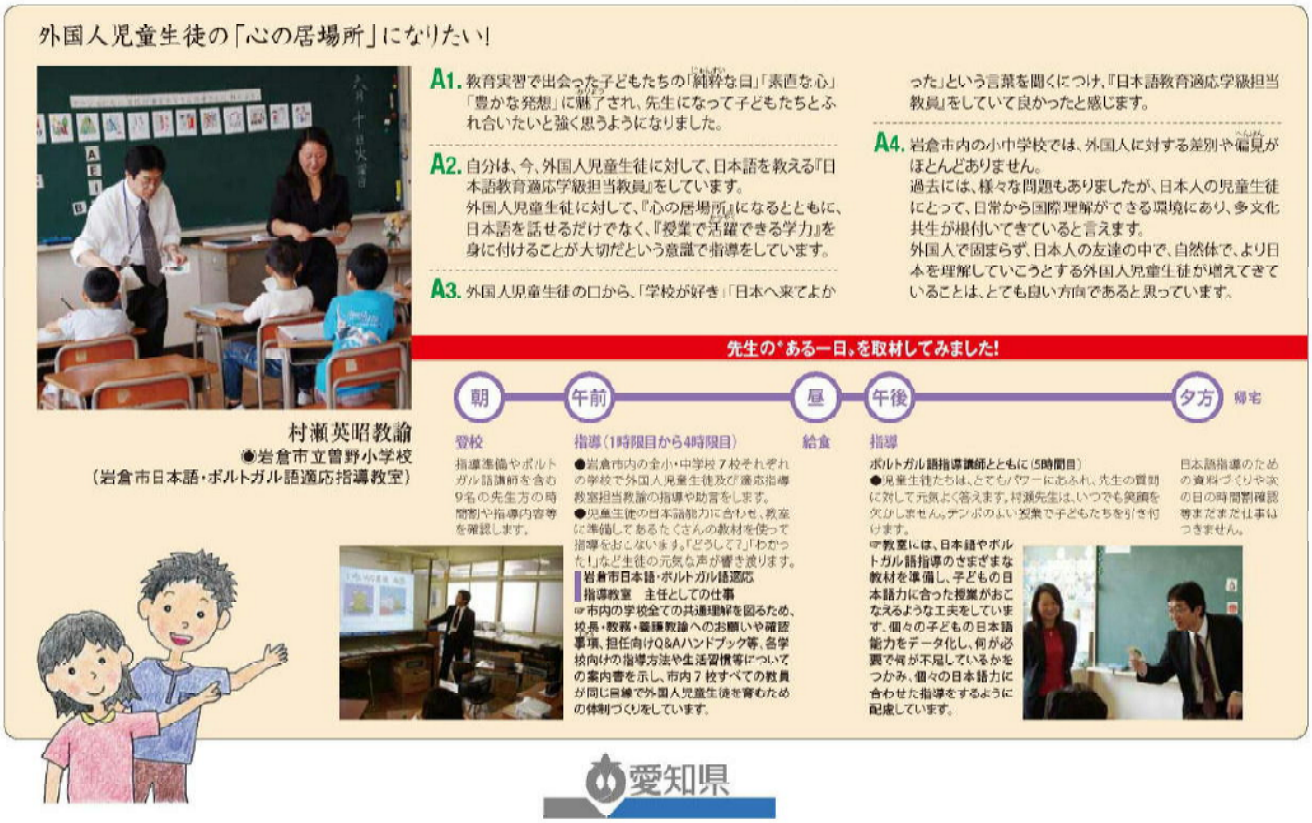
次ですが，日本へ来たばかりで言葉が分からない児童生徒に集中して日本語を教える必要があるだろうということで，岩倉市の取組みとして集中初期指導ということをやっています。それから，外国人児童生徒に対する偏見，差別，これは根強くあります。地域の方にとっては，外国人のことなど眼中にもありませんので，そういう方々に知っていただくという機会を設けなければいけない。公開指導へとにかく来てくださいと。市の議員さんや区長さんや，いろいろな人に案内状を出して，現状を見てください。この子たちは日本でこれだけ頑張っているのですと。そういうことを見ていただいています。その後は地域の方との意見交換会ということを行いまして，こちらの視点と地域の方々との視点というのは違うものですから，そこら辺をお互いの意見を取り入れながらよりよい方向にしていこうということで進めていっています。

そして，彼らが日本語を習得していく反面，保護者とのコミュニケーションを段々取れなくなってくるわけです。母語喪失ですね。ですから，コミュニケーションをとれるために母語保持という活動を行っています。これはとっても大事なことです。だから，ここにみえる方はポルトガル語，スペイン語を今はしゃべれないとしても，実際に教育現場に行きたいのだというのであれば最低限の会話ですとか，単語は知っていたほうが絶対に有利です。保護者とのコミュニケーションをとれなくなったときには悲惨な現状が起きます。例えば，お腹が痛いということが伝えられなくなります。学校で急に事件が起こった。事故が起こった。そういうときに親と通じなくなります。たまたまブラジル人の通訳の方がいればいいですけれども，いないときに困ってしまいます。ですから，そういうときにも担当者が言葉がしゃべれるといいなということもあります。母語保持に加えて，ブラジルへ帰ったときに少しでも役に立つようにブラジルの教育ということも，ブラジルの教科書を使ってやっています。ブラジル人の先生にはもう８年担当してもらっています。
（写真をさして）これは先日行った日本語指導の公開指導の様子です。多くの方に来ていただきました。外国人児童生徒の指導は，きれい事ではありません。多くの苦労があります。文化・習慣の違いで月曜日休む，雨の日休む，雪になったら来ない。当たり前にあります。ありますが，やはり日々の積み重ねですね。少しずつ「それはいけないんだよ」「日本ではこうなんだよ」「ここは日本なんだよ」「それを前提に考えていかなければいけないんだよ。ここで生きていくためには順応していこうね」というようなことを自分たちだけではなくて，日本に長くいて慣れている同じブラジル人やスペイン，ペルー人の子たちからも言ってもらうようにしています。縁あって自分たちと出会った子たちですから，彼らが「日本へ来てよかったな」と思ってもらいたい。残念ながら帰国した子についても，「日本に来てよかったな」と思ってもらいたいということを心がけて指導しています。（拍手）

■尾崎さん

ありがとうございました。村瀬先生は外国の子どもたちの教育をもう９年以上おやりになっていて，おそらく，愛知県の中でも最も進んだ教育活動をなさっていらっしゃいます。

◎　あいち発きょういく通信『パレット』　掲載



◎　各校での巡回担当者会

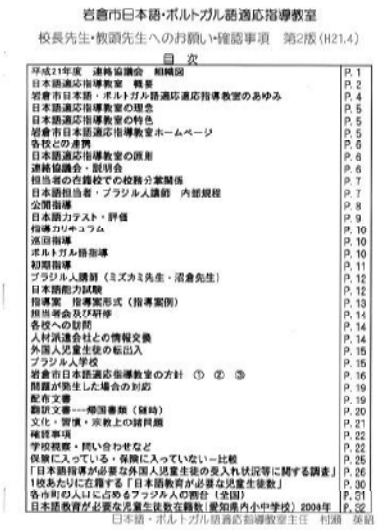
事務局や担当者在籍校で行っている担当者会を市内７校の学校で行い，各校の連絡協議会メンバーだけでなく，校長先生や養護教諭・担任の先生方との意見交換をし，多方面の意見を今後の活動に取り入れていくことを目的に新規設定。

○　日程
- 五条川小学校－1月19日(火)
- 岩倉南小学校－2月 2日(火)
- 南　部中学校－2月23日(火)
- 曽　野小学校－3月 9日(火)
- 岩　倉中学校－1月26日(火)
- 岩倉北小学校－2月16日(火)
- 岩倉東小学校－3月 2日(火)

○　参加者
- 校長先生(教頭先生)
- 教務主任
- 養護教諭
- 外国人児童生徒の担任
- 適応指導教室に興味のある先生
- 日本語担当者７名
- ブラジル人講師２名

○　巡回担当者会の進行
- 14:00～　責任校・巡回校・初期指導（各担当者からの報告・課題）
  研究内容・開発教材・作成文書など（各担当者からの報告）
  共通理解を図るべき事項の検討
- 15:30～　参加された先生方との意見交換
  開催校校長先生(教頭先生)からの御指導

◎　マニュアルの改定，分冊化（管理職，教務主任，養護教諭，学級担任）


岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室
校長先生・教頭先生へのお願い・確認事項　第2版（H21.4）
目　次

岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室
養護教諭向け　確認事項
第2版（H21.4）
☆ - - - 養教の先生へのお願い・確認
目　次

岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室
担当者向けマニュアル　第2版（H21.4）
依頼・確認事項（記号の見方）
◎ - - - 校長先生へのお願い
○ - - - 教務主任の先生へのお願い・依頼
□ - - - 外国人児童生徒を担任している先生へのお願い・確認
☆ - - - 養教の先生へのお願い・確認
★ - - - 日本語・ポルトガル語担当者への確認
校長先生，教務主任，担任，養護教諭の先生へのお願いや確認事項，担当者への確認事項などが記入してあります。
目　次

◎　教材　新規作成・編集分（リスト一覧は別紙，【　】内はファイル数）

○　ステップ１（初期プリント）	【 108】
○　ステップ１（初期画像）	【1816】
○　ステップ２（初級①プリント）	【 423】
○　ステップ２（初級②プリント）	【 233】
○　ステップ２（初級画像）	【5463】
○　ステップ３（中級①プリント）	【 607】
○　ステップ３（中級②プリント）	【 657】
○　ステップ３（中級画像）	【4789】
○　ステップ４（上級プリント）	【 599】
○　ステップ４（上級画像）	【3314】
★ ステップ2･3･4(日本語能力試験プリント)	【 127】
★ ステップ2･3･4(日本語能力試験	【3264】
○　漢字教材	【　49】
○　ステップ共通教材	【 612】
○　その他　編集・未整理分	【1905】

◎　翻訳文書　新規作成，修正分（リスト一覧は別紙）

☆　学校で使う用語・会話	【26】
○　学級経営	【 8】
○　学校行事　運動会関係	【12】
○　学校行事　遠足関係	【16】
○　学校行事　家庭訪問関係	【16】
○　学校行事　学芸会・学習発表会関係	【10】
○　学校行事　修学旅行	【 8】
○　学校行事　卒業関係	【11】
○　学校行事　入学式・１日入学・始業式関係	【25】
○　学校行事　野外活動・自然教室	【 9】

○　学校文書　PTA活動　【31】
○　学校文書　安全確保　【14】
○　学校文書　夏・冬・春休み関係　【13】
○　学校文書　個人・地区懇談・保護者会関係　【20】
○　学校文書　授業参観・親子集会・教室案内　【34】
○　学校文書　集金・PTA会費関係　【11】
○　学校文書　体育・プール関係　【 3】
○　学校文書　地震・台風・災害時関係　【25】
○　学校文書　中学校　部活動　【 6】
○　学校文書　中学校関係　【 6】
○　学校文書　中学校入学・進学関係　【11】
○　学校文書　通知表・要録関係　【14】
○　学校文書　転出入・去校・一時帰国　【11】
○　学校文書　東っ子　【 2】
○　学校文書　保護者への連絡　【41】
○　帰国文書　ポルトガル語・スペイン語・英語　【15】
○　帰国文書　帰国手続きの方法　日本語文　【 5】
○　帰国文書　公印確認申請書　【 2】
○　行事予定　【47】
○　市役所申請関係　【 8】
○　就学時健診　【21】

◎　日本語・教科テストの改定（新指導要領に合わせて）

1　語い力テスト　まとめ
2　教科　語い　学習用具テスト　まとめ
3　教科　語い　教科用語テスト　まとめ
4　漢字テスト　まとめ
5　算数　計算テスト　まとめ
6　算数　文章題テスト　まとめ
7　算数　図形・表・グラフ・単位テスト　まとめ
8　日本語能力　文法テスト
　6年生　－　4級・3級・2級
　中学生　－　4級・3級・2級・１級

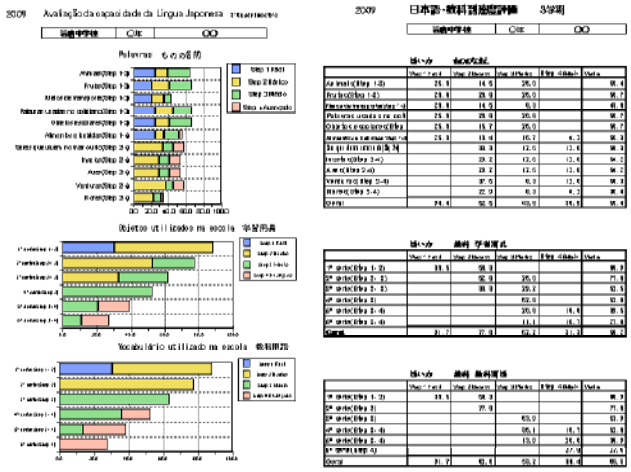
～ 改定のポイント ～

○　新指導要領に準拠
○　愛知県使用の教科書に合わせた内容を抽出
○　学期ごとにテストを作成
○　日本語能力（ステップ1～5）に応じた内容を精選
○　『日本語力・教科力テスト』からの改名

◎　評価

○　多言語対応版作成

・　ポルトガル語　－　ブラジル
・　スペイン語
　　－　ペルー，ボリビアなど
・　英　語　－　フィリピン
・　中国語　－　中国，台湾
・　日本語　－　その他の言語



◎　指導区分・ステップの見直し（リスト一覧は別紙）

○　ステップ　－－－－　個々の日本語習熟度の段階（７段階）

※　日本語能力試験指導は，ステップ2～4(S2-①～S4)

○　ステップ別

・　ステップ０(S0)　－－－　学校適応指導（耳に入れる）－集中指導
・　ステップ１(S1)　－－－　初期　（聞く）
・　ステップ２(S2-①)　－－　初級①　（話す）
　　(S2-②)　－－　初級②　（話す力の定着）
・　ステップ３(S3-①)　－－　中級①　（読む）
　　(S3-②)　－－　中級②　（読む力の定着）
・　ステップ４(S4)　－－－　上級　（書く）

※　ステップ2～4(S2-①～S4)　－　日本語能力試験

教科指導	ステップ	日本語指導	日本語能力試験	漢　検
	ステップ０	S0－学校適応 耳に入れる		
小１の学習内容	ステップ１	S1－初期 聞く		
小２の学習内容 小３の学習内容 小４の学習内容 小５の学習内容 小６の学習内容	ステップ２	S2-①－初級① 話す S2-②－初級② 話す力の定着	N５ N４・N３ N２ N１	10・9級 8・7級 6・5級 4・3・2級
中学校の学習内容	ステップ３	S3-①－中級① 読む S3-②－中級② 読む力の定着		
	ステップ４	S4－上級 書く		

◎　指導項目・指導語い　一覧表の作成（リスト一覧は別紙）

『指導教材・プリント』　ステップ・学年別指導一覧表　【日本語　ことば】

		ステップ0	ステップ1	ステップ2		ステップ3		ステップ4
		○学校適応指導	○初期指導	○初級指導①	○初級指導②	○中級指導①	○中級指導②	○上期指導
		基礎的な教材を	テスト－0～10点	テスト－11～25点	テスト－26～40点	テスト－41～55点	テスト－56～70点	テスト－71点～
		（耳に入れる）	（聞く力の定着）	（話す力）	（話す力の定着）	（読む力）	（読む力の定着）	（書く力）
日本語　ことば　母語						○母語・日本語練習 まとめ1・2 中学単語 基本的な動詞・形容詞 教科に必要な用語 授業中 中学単語 保護者で 学校生活のことば①② 学校生活ビンゴ（ポ・ス）		○母語・日本語練習 まとめ　ポルトガル語 文章で学ぶ動詞 文章で学ぶ動量詞 文章で学ぶ動詞　川 文章で学ぶ動詞　秋田語 文章で学ぶ動詞　英語 文章で学ぶ動詞
日本語　ことば	共通	これどっち 学校生活に適応するために必要なことば 口のつくことば あいさつ 形容詞 ある・いる　ビンゴ いい・だめ います　あります かな練習帳 きょうしつにあるもの これなんだ？ ひらがな（読む） よろぐ・ようこなまえ 基礎語彙カード 月・曜日（ポ・ス） 着脱診カード 日常会話語　彩と成績 日本語学級1　カード 名前の練習（おがわたけし） 曜日　きょうなど		○のつくことば 必要なことば 1年　わくわくワーク①～④ かくれたことば　野菜 カタカナ（読む） しりとり チューリップ（教科カード） どうぶつの名前さがし のばす音 ひらがな（書く） ものの数えかた　単位　助数詞 音でおぼえるにほんご 月　日　曜日　平前 学校生活に適応するために必要なことば 教員図鑑 月　平前　時計 時間指導教材 色 食べ物の名前 起る（診カード） 書点のつくことば1－4 すうじ（～3けた） 学校の1年間 学校行事1年間 学校生活あれこれ 動きのことば 反対ことば 部屋の中にあるもの 野菜・バスケ（診カード）	カタカナ（書く）	「ひらがな」「カタカナ」の由来　プリント 必要なことば　まとめ ○ぎおんこ・きたいこ もののようす 人の気持ちやようす 人の動作やようす 総合練習問題① ○ぎおんこ・きたいこ（） 人の動作や様子①－④ 練習問題 ばしょあてクイズ 学校生活のことば①－② 学習を理解するために必要なことば　3年生（ポ） 学習を理解するために必要なことば　3年生 語彙力ぐんぐん1日10分 日本語練習帳	あいうえ・組び歌 アナグラム かくしことば ことわざ・慣用句とは？（） しりとり スリーヒント バラバラことば ものの数え方 隠語ことば 教科　レベル① 学年ことば 方言 名前歌 十二文	必要なことば　まとめ ことわざ コロケーション（男体のことば） 一般教養三択問題 慣用句　慣用表現 教科　レベル②

語い　教科　音楽　教科用語　ステップ別指導一覧表

	ステップ0	ステップ1	ステップ2		ステップ3		ステップ4
	○学校適応指導	○初期指導	○初級指導①	○初級指導②	○中級指導①	○中級指導②	○上期指導
	基礎的な教材を含める	テスト－0～10点	テスト－11～25点	テスト－26～40点	テスト－41～55点	テスト－56～70点	テスト－71点～
	（耳に入れる）	（聞く力の定着）	（話す力）	（話す力の定着）	（読む力）	（読む力の定着）	（書く力）
1年							
2年			リズム 音符	二分音符 四分音符	八分音符 四分休符 八分休符	リピート	
3年				タンギング 楽器 音楽会	ト音記号	演奏 五線 金管楽器	縦線 終止線 加線 小節 階名
4年				合唱	全音符 四分の四拍子 四分の二拍子 四分の三拍子 指揮 合奏	シャープ ナチュラル スタッカート タイ クレシェンド デクレシェンド フラット フォルテ ピアノ スラー 木管楽器	
5年					ヘ音記号	メッゾフォルテ メッゾピアノ 八分の六拍子 器楽 アクセント	
6年						斉唱	速度記号 長調と短調 独唱 重唱 アンサンブル

◎　通訳配置

- 保護者会
- 就学時検診
- １日入学

◎　日本語能力試験

○　平成２１年度　日本語能力試験　受験結果
- １級　合格者・・・　３名（受験者８名中）
- ２級　合格者・・・　３名（受験者６名中）
- ３級　合格者・・・　２名（受験者２名中）

※　１６名の受験者中・・・合格８名，不合格８名
→　来年度（４月）から受験制度が変わり，年２回（６月・１２月）の実施となる。

◎　担当者会・研修会（詳細は，別紙－担当者会記録を参照）

※　担当者会で話し合ったことは，在籍校の校長先生・教務主任に報告。
　　教育委員会へは，村瀬から報告。

○　担当者会の進行
①　各担当者からの報告・課題（責任校・巡回校・初期指導）
②　各担当者からの報告（研究内容・開発教材など）
③　共通理解を図るべき事項の検討
④　担当者会　会場校　校長先生からの御指導

○　各担当者は，それぞれの役割分担に従って，下記の内容を行う。
①　教材・テスト作成
②　指導法・指導内容の研究
③　児童生徒の日本語力状況確認及び指導時間割の見直し
④　翻訳文書作成

※　ミズカミ・沼倉先生は，随時，話合いに参加するとともに翻訳文書の作成をする。

★　個人レベルの研究も各自，自主的に進めていく。

- 担当者会　毎週　火曜日実施
- 研修会　　毎週　水曜日実施

※　３学期には，巡回担当者会を実施

○　夏休み公開講座『ポルトガル語講座』の開催
- 学校で使うポルトガル語・スペイン語　会話集　作成

○　外国人児童生徒　追跡調査(H13～H21）作成（別紙）